

特 24J

137

厚生省 編纂

# 汽罐取締令

大日本産業報國會

# 始



4

特249  
137



厚生省  
編纂

罐  
取  
締  
令

大日本産業報國會





# 汽罐取締令

昭和十年四月九日  
内務省令第二〇號

## 第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ汽罐ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 密閉セル容器ニシテ専ラ大氣壓ヨリ高キ壓力ノ蒸汽ヲ發生スル汽罐
- 二 密閉セル容器ニシテ其ノ罐水ノ溫度ヲ上昇セシメテ容器外ニ給湯スル温水罐
- 三 密閉セル容器ニシテ蒸汽ヲ發生シ又ハ之ニ蒸汽ヲ送入シテ直接物品ヲ加熱スル蒸罐

第二條 本令ニ於テ傳熱面積ト稱スルハ汽罐ノ一面ガ熱ガスニ觸レ他ノ面ガ水ニ觸ルル部分ヲ熱ガスノ觸ルル側ニ於テ測レル面積ヲ謂フ  
本令ニ於テ炉格面積ト稱スルハ汽罐ノ燃料焚燒ヲ目的トスル炉格子ノ有效面積ヲ謂フ  
本令ニ於テ制限壓力ト稱スルハ汽罐ノ最高使用

汽罐取締令

ゲージ壓力ヲ謂フ

第三條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ之ヲ適用セズ

- 一 制限壓力〇・五疋平方種以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ内徑三百耗以下、長六百耗以下又ハ傳熱面積一平方米以下ノモノ
  - 二 傳熱面積三・五平方米以下ノ汽罐ニシテ大氣ニ開放セル蒸汽管又ハ水頭壓五米以下ノ堅管ヲ有シ其ノ管ノ内徑二十五耗以上ノモノ
  - 三 水頭壓十米以下ノ温水罐ニシテ炉格面積〇・五平方米以下、傳熱面積八平方米以下ノモノ
  - 四 制限壓力〇・五疋平方種以下ノ蒸罐ニシテ罐胴ノ内徑五百耗以下、長千耗以下又ハ内容積〇・二立方米以下ノモノ
  - 五 炊事用高壓釜
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ第三十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

- 一 制限壓力四疋平方種以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ内徑七百五十耗以下、長千三百耗以下又ハ傳熱面積三平方米以下ノモノ
- 二 水頭壓二十米以下ノ温水罐ニシテ桁格面積一平方米以下又ハ傳熱面積十四平方米以下ノモノ

三 蒸 罐

第五條 汽罐ヲ設置セントスル者ハ汽罐毎ニ別記第一號様式ニ依ル願書正副二通ニ別記第二號様式ニ依ル汽罐明細書二通（先ニ罐體検査ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ罐體検査済ノ印ヲ押捺シアル汽罐明細書及其ノ寫）ヲ添ヘ設置地（移動式汽罐ニ在リテハ其ノ主タル作業事務所所在地以下之ニ同ジ）地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クベシ

第六條 汽罐ハ罐體検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

前項ノ罐體検査ニ於テ行フ水壓試験ノ水壓力ハ

左ノ各號ニ依ル

- 一 制限壓力 四・三疋平方種ヲ超ユルトキハ其ノ壓力ノ一・三倍ニ三疋平方種ヲ加ヘタル壓力
  - 二 制限壓力 一疋平方種ヲ超エ四・三疋平方種以下ナルトキハ其ノ壓力ノ二倍ノ壓力
  - 三 制限壓力 一疋平方種以下ナルトキハ二疋平方種ノ壓力
  - 四 制限壓力 以上ノ壓力ヲ受クルノ處ナキ温水罐ニ在リテハ其ノ壓力ニ一疋平方種ヲ加ヘタル壓力
- 第七條 罐體検査ヲ受ケントスル者ハ汽罐毎ニ別記第三號様式ニ依ル願書ニ別記第二號様式ニ依ル汽罐明細書二通（第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル地方長官ノ罐體検査ヲ受ケントスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ）ヲ添ヘ汽罐所在地地方長官ニ申請スベシ
- 罐體検査ニ合格シタルトキハ汽罐ニ別記第四號

様式ニ依ル刻印ヲ押刻シ汽罐明細書一通ニ別記第五號様式ニ依ル罐體検査済ノ印ヲ押捺シ之ヲ交付ス

前項ノ汽罐明細書ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ速ニ書換ヲ受檢地地方長官ニ申請スベシ

第二項ノ汽罐明細書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受檢地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第八條 汽罐設置工事竣功シタルトキハ汽罐毎ニ別記第六號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ竣功検査ヲ受クベシ

竣功検査ニ合格シタルトキハ別記第七號様式ノ汽罐検査證ヲ交付ス

移動式汽罐ニ付テハ第一項ノ竣功検査ヲ省略シ先ニ第五條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ罐體検査ニ合格シタル際先ニ罐體検査ニ合格シタルモノニ在リテハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ際別記第七號様式ノ汽罐検査證ヲ交付

ス

第九條 汽罐ハ汽罐検査證ノ交付ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

汽罐設置者ニ變更アリタルトキハ承繼者ハ十日以内ニ設置地地方長官ニ届出デ汽罐検査證ノ書換ヲ受クベシ

汽罐検査證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ設置地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第十條 汽罐設置者汽罐又ハ其ノ設備ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル部分ヲ修繕又ハ變更セントスルトキハ別記第八號様式ニ依ル願書正副二通ニ汽罐検査證ヲ添ヘ設置地地方長官ノ許可ヲ受クベシ汽罐ノ制限壓力又ハ水頭壓ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 一 汽罐ノ罐胴、桁筒、火室、鏡板、冠板、管板及控
- 二 焚燒裝置
- 三 汽罐ノ据付基礎

第十一條 前條第一號ノ部分ノ修繕又ハ變更工事竣功シタルトキハ別記第九號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ修繕又ハ變更検査ヲ受クベシ

汽罐ハ前項ノ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十二條 汽罐検査ノ有効期間ハ一年トス但シ汽罐ノ構造又ハ管理ノ状況ニ依リ地方長官ハ之ヲ短縮シ又ハ延長スルコトヲ得

第十三條 汽罐検査ノ有効期間滿了後引續キ汽罐ヲ使用セントスルトキハ有効期間滿了前別記第十號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ更新検査ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ臨時ニ汽罐ノ検査ヲ行フコトヲ得

地方長官前二項ノ検査ヲ行フトキハ別記第十一號様式ニ依リ豫メ期日ヲ指定シテ之ヲ通知ス

第十四條 汽罐ニシテ厚生大臣ノ指定スル保險業

者ノ保險ニ付シタルモノニ付テハ地方長官ハ前條第一項ノ更新検査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更新検査ヲ省略セラレタル汽罐ニ付保險契約ノ終了又ハ解除アルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ保險業者ノ保險ニ付シタルトキハ十日以内ニ別記第十二號様式ニ依リ設置地地方長官ニ届出ツベシ其ノ保險契約ノ更新、終了又ハ解除アリタルトキ亦同ジ

第一項ノ保險業者汽罐ノ検査ニ從事スル汽罐検査員ヲ選任セントスルトキハ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ

厚生大臣汽罐検査員ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 汽罐ノ検査ヲ受ケントスルトキハ體體ヲ冷却シ煙道ヲ掃除シ其ノ他受檢ニ必要ナル準備ヲナシ置クベシ

第十六條 汽罐設置者又ハ汽罐取扱主任者ハ検査

ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第十七條 當該官吏検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命ズルコトヲ得

- 一 汽罐ノ被覆物ノ全部又ハ一部ヲ取除クコト
- 二 汽罐ヲ移動スルコト
- 三 銲若ハ管ヲ抽出シ又ハ罐材ニ穿孔スルコト
- 四 水壓試験ヲ施行スルコト
- 五 鑄鐵製汽罐ニ付テハ解體スルコト
- 六 其ノ他必要ナル事項

第十八條 汽罐設置者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 汽罐室其ノ他汽罐ノ設置場所ニハ係員ノ外濫リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ揭示スルコト
- 二 汽罐検査證並ニ汽罐取扱主任者ノ資格及氏名ヲ汽罐室其ノ他汽罐設置場所内ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト但シ移動式汽罐ニ在リテハ

汽罐取扱主任者ヲシテ之ヲ携帶セシムルコト

三 汽罐取扱主任者ヨリ汽罐ノ構造裝置ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ汽罐設置者ハ遲滞ナク設置地地方長官ニ届出ツベシ

- 一 汽罐ノ使用ヲ廢止セントスルトキ
  - 二 一年以上汽罐ノ使用ヲ休止セントスルトキ
- 前項第一號ノ場合ハ汽罐設置者ハ汽罐検査證ヲ返納スベシ
- 第一項第二號ノ汽罐ヲ再ビ使用セントスルトキハ遲滞ナク設置地地方長官ニ届出ツベシ

前項ノ場合ニ於テ汽罐検査ノ有効期間滿了後ナルトキハ再使用検査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

前項ノ再使用検査ヲ受ケントスルトキハ別記第十三號様式ニ依リ設置地地方長官ニ申請スベシ

第二十條 汽罐ノ設置場所ニ於テ火災、汽罐ノ破

裂又ハ之ニ準ズル事故發生シタルトキハ汽罐設置者ハ別記第十四號様式ニ依リ遅滞ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十六條ノ規定ニ該當スルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第二十一條 汽罐設置者ハ汽罐ニ付一切ノ權限ヲ有スル汽罐管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ汽罐管理人ヲ選任セントスルトキハ汽罐設置者ハ汽罐管理人連署ノ上設置地地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

汽罐管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ汽罐設置者ニ代ルモノトス

第二十二條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ汽罐ノ設置場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十三條 地方長官ハ汽罐ノ使用ニ關シ危害ヲ生ジ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

ハ汽罐設置者ニ對シ除害若ハ豫防ノ爲必要ナル施設ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ノ規定ニ依ル許可ヲ取消スコトヲ得  
一 本令ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタルトキ

二 汽罐設置者ノ所在不明三月以上ニ互リタルトキ

三 汽罐ノ使用ヲ引續キ三年以上休止シタルトキ

### 第二章 汽罐ノ構造

第二十五條 汽罐ハ告示ヲ以テ別ニ定ムル構造上ノ要件ヲ具備シタルモノナルコトヲ要ス

應張力又ハ應曲力ヲ生ズル部分ニ付熔接ヲ行ヒタル汽罐ハ熔接ノ設備、設計、施行方法及熔接者ニ付熔接着手前汽罐熔接地地方長官ノ承認ヲ

受ケタルモノナルコトヲ要ス

地方長官支障ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

### 第三章 汽罐室

第二十六條 汽罐ハ専用ノ建物又ハ適當ニ區劃セル場所ニ之ヲ設置スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 汽罐ノ据付位置ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 汽罐ノ外側ト天井又ハ屋根裏トノ間ニハ百二十浬以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ安全弁其ノ他ノ装置ノ檢査及取扱ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 汽罐ヲ露出セル汽罐又ハ堅型汽罐ニ在リテハ前號ノ外其ノ外側ト壁體トノ間ニ四十五浬以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ罐胴ノ内徑五百浬以下ニシテ長千浬以下ノモノニ在リ

テハ三十浬迄短縮スルコトヲ妨グズ

第二十八條 露出セル汽罐ノ外側又ハ金屬性煙突若ハ煙筒ヨリ十二浬以内ニ在ル可燃性材料ハ金屬以外ノ不燃性材料ヲ以テ適當ニ被覆スベシ  
汽罐室又ハ汽罐設置場所ニ燃料ヲ貯藏スル場合ニハ汽罐外側ヨリ百二十浬以上ノ距離ヲ保有セシムベシ但シ防火ノ爲適當ナル障壁ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 汽罐室ニハ二以上ノ出入口ヲ設クベシ但シ避難ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 本章ノ規定ハ移動式汽罐ニハ之ヲ適用セズ

### 第四章 汽罐士及汽罐取扱主任者

第三十一條 汽罐士免許ヲ受ケタル者(以下單ニ汽罐士ト稱ス)ニ非ザレバ汽罐ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ズ但シ汽罐士ノ指揮監督ノ下ニ補助トシテ作業ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

汽罐士免許ヲ分チ一級汽罐士免許及二級汽罐士免許ノ二種トス

第三十二條 汽罐士免許ハ汽罐士試験ニ合格シ且

一級汽罐士免許ニ在リテハ一年以上、二級汽罐士免許ニ在リテハ六月以上汽罐取扱ノ作業ニ從事シタル者ニ之ヲ與フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ與ヘズ

一 女子又ハ十八歳未満ノ者

二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三 汽罐士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

四 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第三十三條 汽罐士試験ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

一 汽罐構造（設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム）

二 汽罐取扱方法

三 燃料及燃焼

四 汽罐取締ニ關スル法令

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ一級汽罐士試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 工業學校ニシテ國民學校初等科卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ若ハ國民學校高等科卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械又ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

三 二級汽罐士免許ヲ受ケ二年以上汽罐取扱ニ従事シタル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ二級汽罐士試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 前項第一號ニ定ムル以外ノ工業學校ニ於テ機械若ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ

卒業シタル者又ハ地方長官ノ指定シタル青年學校ニ於テ汽罐ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

第三十五條 汽罐士試験ヲ受ケントスル者ハ別記第十五號様式ニ依リ受験地地方長官ニ願出ヅベシ

汽罐士試験ニ合格シタルトキハ別記第十六號様式ノ汽罐士試験合格證書ヲ交付ス

第三十六條 汽罐士免許ヲ受ケントスル者ハ別記第十七號様式ニ依リ前條ノ試験ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スベシ

地方長官汽罐士免許ヲ與ヘタルトキハ別記第十八號様式ノ汽罐士免許證ヲ交付ス

第三十七條 汽罐士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一 故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準ズル事故ヲ惹起シタルトキ

二 第三十二條第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 汽罐取扱主任者タル汽罐士第四十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク汽罐士免許證ヲ返納スベシ

汽罐士免許ノ停止期間滿了シタルトキハ汽罐士免許證ヲ還付ス

第三十八條 汽罐士免許證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ別記第十九號様式ニ依リ免許ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三十九條 汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ヲ選任スベシ

前項ノ汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ニ該當スル者ナルコトヲ要ス但シ第四條ノ汽罐ニ付テハ此ノ

限ニ在ラズ

- 一 取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七疋平方糎以上ノモノニ在リテハ一級汽罐士

- 二 其ノ他ノモノニ在リテハ一級汽罐士又ハ二級汽罐士

汽罐設置者第一項ノ規定ニ依リ汽罐取扱主任者ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書及汽罐士免許證ノ寫(前項但書ノ場合ヲ除ク)ヲ添ヘ設置地方長官ニ届出ツベシ

地方長官汽罐取扱主任者ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

第四十條 汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 水面測定裝置ハ一日ニ一回以上其ノ機能ヲ検査スルコト
- 二 罐水ノ汚濁ニ注意シ適宜排水ヲ行フコト

- 三 給水裝置ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト
  - 四 安全弁ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト
  - 五 汽罐検査證ニ記載シタル制限壓力ヲ超エテ蒸汽壓ヲ上昇セシメザルコト
  - 六 危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト
- 汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ガ前項各號ノ事項ヲ遵守スルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第五章 手数料

第四十一條 汽罐設置者第七條第一項(體體検査)、第八條第一項(竣工検査)、第十一條第一項(修繕、變更検査)、第十三條第一項(更新検査)又ハ第十九條第五項(再使用検査)ノ検査ヲ受ケントスルトキハ別表第一號ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第四十二條 汽罐士試験若ハ汽罐士免許ヲ受ケントスル者又ハ汽罐士免許證ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ別表第二號ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第四十三條 前二條ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ願書ニ之ヲ貼付スベシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ但シ第三十四條ノ規定ニ依リ汽罐士試験ノ全部ヲ省略シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 罰則

第四十四條 左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

- 一 第五條(汽罐設置許可)、第六條第一項(體體検査)、第九條第一項(汽罐検査證)、第十條(汽罐修繕、變更許可)、第十一條第二項(汽罐修繕、變更検査)、第十四條第四項(汽罐検査員ノ認可)、第十五條(汽罐検査ノ準備)

汽罐取締令

第十六條(汽罐検査ノ立會)、第十八條(汽罐設置者ノ遵守事項)、第十九條第四項(汽罐再使用検査)、第二十六條乃至第二十九條(汽罐室)、第三十一條第一項(汽罐士免許)、第三十九條第一項(汽罐取扱主任者ノ選任)及第四十條(汽罐取扱主任者ノ遵守事項及汽罐設置者ノ義務)ノ規定ニ違反シタル者

- 二 第十三條第二項ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者、第十七條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ命令ニ從ハザル者又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ地方長官ノ命令又ハ八處分ニ違反シタル者

第四十五條 第七條第三項(汽罐明細書書換手續)、第九條第二項(汽罐設置者變更手續)、第十四條第三項(保險契約及其ノ更新、終了又ハ解除ノ届出)、第十九條第一項乃至第三項(汽罐使用ノ廢止又ハ休止ノ届出、汽罐検査證ノ返納及汽罐再使用ノ届出)、第二十條(事故ノ届出)、第三



十七條第二項(汽罐士免許證ノ返納)及第三十九條第三項(汽罐取扱主任者ノ届出)ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十六條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第四十七條 汽罐設置者又ハ汽罐管理人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十八條 本令ニ依ル罰則ハ汽罐管理人ヲ選任シタル場合ニ在リテハ汽罐管理人ニ、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 附 則

第四十九條 本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 地方長官ハ本令施行ノ際汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ設置又ハ修繕ノ許可申請中ノ汽罐ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得

第五十一條 本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ検査若ハ試験又ハ許可若ハ認可ヲ受ケタル汽罐ハ本令ニ依リ検査又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十二條 本令施行ノ際現ニ許可又ハ検査ヲ要セズシテ使用スル汽罐ニシテ本令ノ規定ニ依リ

新ニ許可又ハ検査ヲ受クルヲ要スルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十三條 本令施行ノ際現ニ汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ従事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ關スル資格ニ付地方長官ノ證明若ハ免許ヲ有スル者又ハ本令施行前一年以上汽罐ノ取扱ニ従事シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ニ本人ノ申請アリタル場合ニ限り第三十二條本文ノ規定ニ拘ラズ左ノ區別ニ從ヒ汽罐士免許ヲ與フ

- 一 取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七疋平方厘以上ノ汽罐ノ取扱ニ付資格又ハ免許アル者又ハ其ノ取扱主任者ニハ一級汽罐士

二 其ノ他ノ者ニ在リテハ二級汽罐士

第三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二項ノ場合ニ在リテハ第四十二條ノ規定ニ依ル手数料ハ之ヲ徴收セズ

(第一號様式)

汽罐設置願

左記汽罐設置致度候間御許可相成度此段及御願候也

年月日

設置者氏

名

(地方長官)殿

一	事業ノ名稱及種類
二	設置地地名番號、市街地建物後ニ依ル地城段ニ地區 設置者住所氏名、生年月日(法人ノ場合ニ在リテハ名 稱、主たる事務所所在地、代表者氏名)
三	敷地周囲ノ狀況
四	汽罐室(蒸氣設置室)ノ構造及床面積
五	使用ノ目的
六	一日ノ最長使用時間
七	燃料ノ種類及一日ノ最大消費見積量
八	焚火方法
九	汽罐ノ燃料及其ノ基礎段ニ設置ノ構造
一〇	汽罐ノ附屬設備ノ種類、構造、基數及配置
一一	(イ) 給水装置ノ種類、能力ヲ示ス標準及簡數 (ロ) 蒸氣器ノ材料、主要寸法及蒸氣溫度

(縦二六釐、横三七釐)

(ハ)	過熱方法ノ概要
(ニ)	給水加熱装置ノ概要
(ホ)	空氣加熱装置ノ概要
(ヘ)	給水加熱ノ材料、主要寸法及接手ノ種類
(ト)	蒸氣通過管ノ構造、主要寸法及又ハ能力 ヲ示ス標準
(チ)	焚燒裝置ノ概要
二三	煙突ノ構造、種別及主要寸法
(イ)	煙突ノ構造 甲 鐵板製 乙 鐵筋コンクリート 丙 其他
(ロ)	煙突ノ避雷設備ノ構造概要
(ハ)	煙突ト連絡スル汽罐ノ種類、型式及基數並ニ 其ノ構造面積 其ノ構造面積
二三	工事竣功期日

備考

- 一 移動式汽罐ニ在リテハ第二號欄ニ主タル作業事務所ヲ記入スルコト
- 二 印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添付スルコト
- 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
- 四 願ニ關係ナキ事項ハ省略スルコトヲ得
- 五 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト
- 六 同一型式ノモノニ基以上設置スル場合ニ於テハ一基ニ付詳記シ他ハ省略スルコトヲ得



(第二號様式乙) (鑄鐵製汽罐)

汽罐明細書

一	汽罐ノ種類、型式及節數
二	制限壓力又ハ水頭壓
三	汽罐ノ構造
(イ)	炬格ノ面積
(ロ)	傳熱面ノ積
(ハ)	檢査孔及掃除孔ノ大及數
(ニ)	排水管ノ材料及内徑(排水コック又ハ排水弁ノ取付部ニ於テ適用ナルモノ)
(ホ)	安全弁ノ種類、弁徑及數
(ヘ)	逸水装置ノ概要
(ト)	壓力計ノ最大指度數又ハ水高計ノ最大指度數
(チ)	水面測定装置ノ種類及數(硝子水面計ニ在リテハ硝子管ノ内徑ヲ併記スルコト)
四	製作者名及製作年月並ニ經歷ノ概要
五	水壓試驗壓力
六	檢査場所及年月日
七	檢査官氏名印

- 備考 一 ⊗印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト  
 二 \*印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト  
 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ  
 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト

(縦二六釐、横三七釐)

(第二號様式丙) (蒸罐)

汽罐明細書

一	蒸罐ノ種類及型式
二	制限壓力
三	蒸罐ノ構造
(イ)	蒸罐ノ内容積
(ロ)	筒胴ノ材料、最大内徑、全長及板ノ厚
(ハ)	鏡板ノ材料、形狀及板ノ厚
(ニ)	蓋板ノ材料、形狀及板ノ厚
(ホ)	蓋板締付方法ノ概要
(ヘ)	締付用螺絲及留釘ノ材料、螺絲ノ種類及數
(ト)	罐胴ノ接手
甲	接手ノ種類、係列數、係口徑及偏心距
乙	接手ノ種類、係列數、係口徑及偏心距

(縦二六釐、横三七釐)

	(チ) 安全弁ノ種類、弁徑及數
	(リ) 給汽方法ノ概要
	(ヌ) 壓力計ノ最大指度數
	(ル) 排汽及排水方法ノ概要
四	製作者名及製作年月並ニ經歷ノ概要
五	熔接ヲ行ヒタル箇處及其ノ施行方法
六	熔接施行者名
七*	水壓試驗壓力
八*	検査場所及年月日
九*	検査官氏名印

- 備考 一 ⊗印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト  
 二 \*印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト  
 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ  
 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト

(第三號様式)

罐體検査願

印收  
紙入

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置許可指令番號
- 一 受檢地地名番號
- 一 受檢希望日

右汽罐罐體検査相受度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所  
製作者又ハ設置者  
氏

名

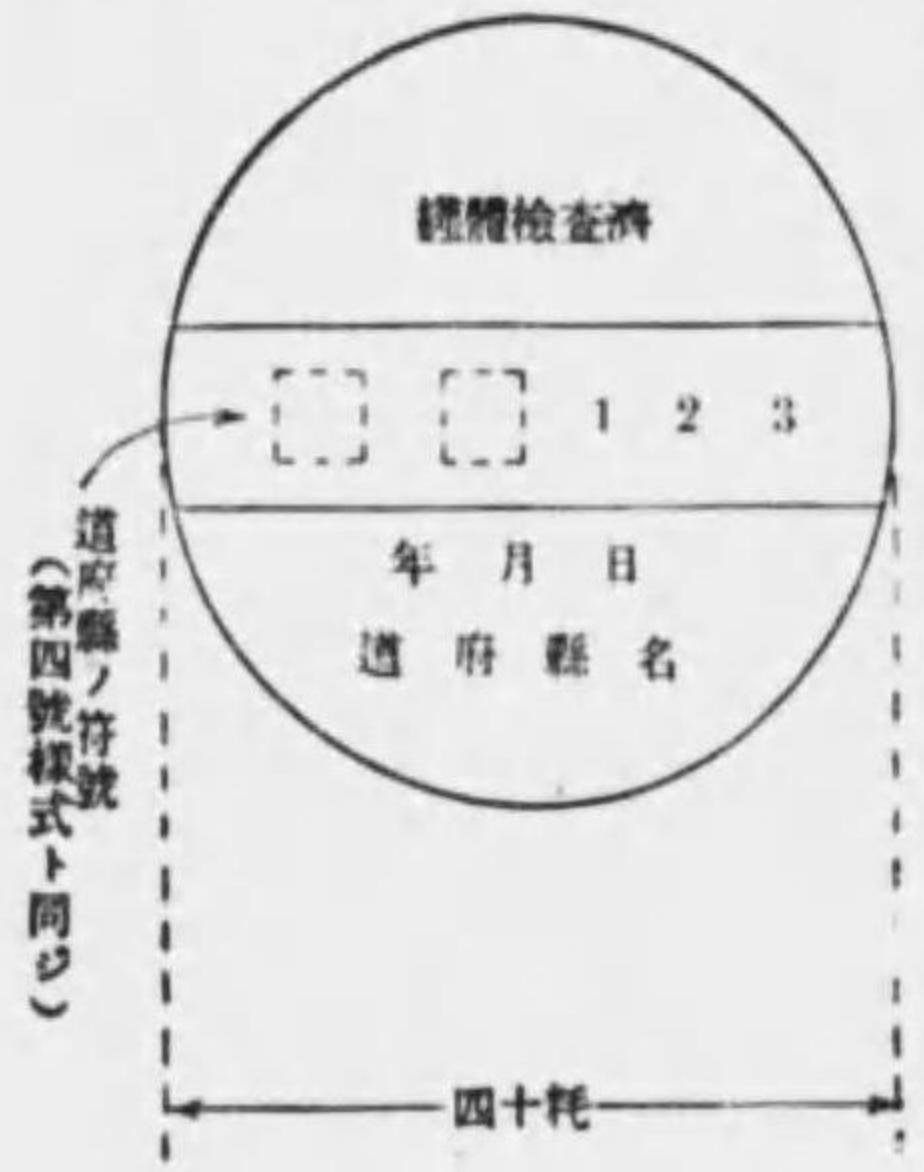
備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

汽罐取締令

(第四號樣式) 道府縣符號表

道府縣名		符號		道府縣名		符號		道府縣名		符號	
北海道	北	靜岡縣	靜	岡山縣	岡	廣島縣	廣	山口縣	山	山口縣	山
青森縣	青	山梨縣	山	廣島縣	廣	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
岩手縣	岩	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
宮城縣	宮	岐阜縣	岐	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
長野縣	長	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
神奈川縣	神	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
大阪府	大	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
兵庫縣	兵	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
新潟縣	新	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
埼玉縣	埼	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
群馬縣	群	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
千葉縣	千	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
茨城縣	茨	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
栃木縣	栃	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
奈良縣	奈	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
三重縣	三	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山
愛知縣	愛	滋賀縣	滋	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山	山口縣	山

(第五號樣式)



備考 鑄製汽罐ノ場合ハ銘板ニ押刻スルコト

ノ文字  
大字  
〇線五ノ  
五ノ太耗  
長九ノ  
七ノ耗

道府縣符號ノ府

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

(第六號樣式)

汽罐竣功検査願

印收  
紙入

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地名番號
- 一 罐體検査刻印
- 一 設置許可指令番號
- 一 受檢希望日

右設置工事竣功致候間御検査相成度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所  
設置者 氏 名

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

汽罐取締令



(第九號様式)

汽罐變修更檢查願

印收  
紙入

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地地名番號
- 一 汽罐檢查證番號
- 一 修繕許可指令番號
- 一 變更檢希望日

右修更工事竣功致候間御檢查相成度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所

設置者 氏

名 ①

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

(第十號様式)

更新檢查願

印收  
紙入

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地地名番號
- 一 汽罐檢查證番號
- 一 汽罐檢查證有效期間
- 一 受檢希望日
- 一 移動式汽罐ニ在リテハ希望受檢地

右更新檢查相受度此段及御願候也

年 月 日

(地長方官) 殿

住所

設置者 氏

名 ①

備考 收入印紙ハ出願人 於テ消印セザルコト



(第十一號様式)

(縦二六釐、横一八・五釐)

年 月 日

廳 府 縣 團

汽罐検査通知書

- 一 汽罐検査證番號 第 號
- 一 検査期日 月 日
- 一 注意事項

右ノ通更新臨時検査施行候條汽罐取締令ニ依リ相當準備相成度

(汽罐設置者) 殿

(第十二號様式)

保險契約 更新  
解除  
了除 屆

- 一 汽罐ノ種類
- 一 汽罐検査證番號
- 一 設置地地名番號
- 一 保險者名
- 一 保險金額
- 一 保險契約年月日
- 一 保險契約期間 自 年 月 日 至 年 月 日

右保險契約 更新  
解除 致候間此段及御届候也

年 月 日

住所 設置者 氏 名 〇

(地方長官) 殿

汽罐取締令

(第十三號様式)

汽罐再使用検査願

印紙入

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地地名番號
- 一 汽罐検査證番號
- 一 使用休止年月日
- 一 受檢希望日

右汽罐再使用検査相成度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所  
設置者 氏

名

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

汽罐事故報告

(第十四號様式)

記載心得	汽罐ノ種類		事故ノ種類		被害ノ状況		事故ノ原因		被害者ノ状況		備考	
	汽罐ノ種類	設置地	汽罐ノ種類	設置地	死亡者	二週間以上ノ休業ヲ要スル者	其ノ他ノ負傷者	計	被害者ノ姓名	被害者ノ性別	被害者ノ年齢	被害者ノ職業
本報告ハ二通提出スルコト ヲ保存スルコトト 管理ノ氏名ヲ ノ使用ノ力事 ノ事項ヲ記載シ 本欄ニ記載シ 汽罐取締令	汽罐ノ種類	設置地	汽罐ノ種類	設置地	死亡者	二週間以上ノ休業ヲ要スル者	其ノ他ノ負傷者	計	被害者ノ姓名	被害者ノ性別	被害者ノ年齢	被害者ノ職業
本報告ハ二通提出スルコト ヲ保存スルコトト 管理ノ氏名ヲ ノ使用ノ力事 ノ事項ヲ記載シ 本欄ニ記載シ 汽罐取締令	汽罐ノ種類	設置地	汽罐ノ種類	設置地	死亡者	二週間以上ノ休業ヲ要スル者	其ノ他ノ負傷者	計	被害者ノ姓名	被害者ノ性別	被害者ノ年齢	被害者ノ職業

(縦二六釐、横一八・五釐)

(第十五號様式)(表面) (縦二六釐、横一八・五釐)

汽罐士試験願	
印紙入	住所
受驗種目 教	氏 (生年月日) 名
右汽罐士試験相受度此段及御願候也	
年 月 日	氏
(地方長官) 殿	

名 ⑤

(第十五號様式)(裏面)

學校及職業ニ關スル履歷

備考

- 一 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト
- 二 出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノ寫眞一葉添附スルコト
- 三 第三十四條ノ規定ニ依リ試験ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ希望スル者ハ其ノ資格證明書ノ寫ヲ添附スルコト

(第十六號様式)

(縦二六釐、横一八・五釐)

汽罐士試験合格證書	
第 號	
一(二)級 汽 罐 士	
右汽罐士試験ニ合格シタルコトヲ證ス	
年 月 日	氏 名
(生年月日)	(生年月日)
府 縣	府 縣

(第十七號樣式)(表面)(縱二六種、横一八・五種)

一(二)級汽罐士免許願

印收  
紙入

一(二)級汽罐士免許相成度此段及御願候也

年 月 日

住所

氏

名

(第十七號樣式)(裏面)

(地方長官)殿

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザ

ルコト

氏名	生年月日	本籍	住所	汽罐士試験合格證書番號	汽罐士試験合格	學校及職業ニ關スル履歷
寫眞	備考 寫眞ハ出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノモノ一葉					
備考	備考 寫眞ハ出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノモノ一葉					

(第十八號樣式) (縱八種、横一八種)

汽罐士免許證

氏名

(生年月日)

一(二)級汽罐士

寫眞

縣廳  
印府

第 號

年 月 日交付

應 府

縣

印

六 種

(第十九號樣式)

汽罐士免許證再交付願

印收  
紙入

一 免許證種目 級汽罐士

一 免許證再交付願出ノ理由  
右汽罐士免許證再交付相成度此段及御願候也

年 月 日

住所

氏

名

(地方長官)殿

備考

- 一 出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノ寫眞二葉ヲ添付スルコト
- 二 毀損ニ因ル再交付願出ノ場合ハ該免許證ヲ添付スルコト
- 三 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

別表手數料

第一號(甲)

種別	傳熱面積(平方米)	汽罐(蒸氣除外)	
		種別	傳熱面積(平方米)
五未滿	〇・七〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
十五未滿以上	一・五〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
四十未滿以上	五・〇〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
四十未滿以上	七・〇〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
百未滿以上	一〇・〇〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
二百未滿以上	一四・〇〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
三百未滿以上	一七・〇〇 <sub>m</sub>	種別	傳熱面積(平方米)
三百以上		種別	傳熱面積(平方米)

第一號(乙)

種別	內容積(立方米)	蒸氣	
		種別	內容積(立方米)
〇・九未滿	〇・五〇 <sub>m</sub>	種別 <td>內容積(立方米)</td>	內容積(立方米)
二〇・九未滿以上	一・〇〇 <sub>m</sub>	種別 <td>內容積(立方米)</td>	內容積(立方米)
五二未滿以上	二・〇〇 <sub>m</sub>	種別 <td>內容積(立方米)</td>	內容積(立方米)
十五未滿以上	三・〇〇 <sub>m</sub>	種別 <td>內容積(立方米)</td>	內容積(立方米)
十以上	五・〇〇 <sub>m</sub>	種別 <td>內容積(立方米)</td>	內容積(立方米)

第二號

級別	汽罐士試驗手數料	汽罐士免許手數料	再汽罐士免許手數料
一級汽罐士	一・〇〇 <sub>m</sub>	一・五〇 <sub>m</sub>	〇・五〇 <sub>m</sub>
二級汽罐士	〇・五〇 <sub>m</sub>	一・〇〇 <sub>m</sub>	〇・五〇 <sub>m</sub>

汽罐構造規格

昭和十年四月九日  
內務省告示第二〇四號

第一章 汽罐ノ材料

汽罐取締令第二十五條ノ規定ニ依ル汽罐ノ構造上ノ要件制限壓力三十五疋平方種以下ノモノニ付左ノ通定ム

第一條 汽罐ノ材料ハ左表ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ要ス但シ之ト同等以上ノ材料ヲ使用スル場合又ハ制限壓力十疋平方種以下ノ汽罐ニ付地方長官支障ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

形	銅					種別	材	質	寸	料	法	註
	板	筒	管	管	管							
形	シテ受クル部分ニハシテ又ハ出等	壓力ノ受クル部分ニシテ又ハ出等	シテ受クル部分ニハシテ又ハ出等	シテ受クル部分ニハシテ又ハ出等	シテ受クル部分ニハシテ又ハ出等	銅	銅	銅	銅	銅	銅	日本標準規格第二十六號
銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	銅	

日本標準規格第四百三十三號

鋼 棒	控(火室又ハ燃燒室)		鋼 管	銅 管	鑄 鋼	可 鍛 鐵	鐵 品	銅 品	管	水 管	煙 管	蒸 汽 管、給 水 管	鋼 材	鋼 材	鋼 材	鋼 材	鋼 材	鋼 材	鋼 材	
	用	控																		
第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種	第一種
第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種	第二種
第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種	第三種
第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種	第四種

鋼板ノ第二種、第三種又ハ棒鋼ノ第二種、第三種ノ各種別ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ同一ノ同一用途ニ供スルモノニ付七疋平方糎ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條 日本標準規格ニ定ムルガス管ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り之ヲ汽罐ノ蒸氣管又ハ給水管ニ使用スルコトヲ得

一 汽罐ノ制限壓力ガ十疋平方糎以下ナルトキ

二 汽罐ノ制限壓力ガ十六疋平方糎以下ニシテガス管ノ徑六十五糎以下ナルトキ

第三條 鑄鐵品(特殊鑄鐵品ヲ除ク)又ハ可鍛鑄鐵品ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一 蒸氣ノ壓力ガ十六疋平方糎ヲ超ユルトキ

二 蒸氣ノ溫度ガ攝氏二百五十度ヲ超ユルトキ

第四條 銅管ハ蒸氣ノ溫度ガ攝氏二百度ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ壓力計又ハ水面計ニ使用スル銅管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 汽罐ノ構造

第五條 汽罐ニ使用スル鋼板ノ厚ハ六糎以上タルコトヲ要ス但シ蒸罐ニ在リテハ厚四糎以上ノ繼日無鋼管ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

控ヲ有スル板、管板又ハ鑄ヲ有スル爐筒板若ハ火室板ノ厚ハ前項ノ規定ニ拘ラズ八糎以上タルコトヲ要ス

汽罐取締令

第六條 罐胴又ハ鑄ヲ有スル汽筒ノ鋼板ノ厚ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 制限壓力二・五疋平方糎ヲ超ユル場合

(イ) 罐胴又ハ汽筒ノ内徑六百糎ヲ超ユルトキ

キハ鋼板ノ厚ハ八糎以上タルコト

(ロ) 罐胴又ハ汽筒ノ内徑六百糎以下ノトキ

ハ鋼板ノ厚ハ六糎以上タルコト

二 制限壓力二・五疋平方糎以下ノ場合

(イ) 罐胴又ハ汽罐ノ内徑九百糎ヲ超ユルトキ

キハ鋼板ノ厚ハ八糎以上タルコト

(ロ) 罐胴又ハ汽筒ノ内徑九百糎以下ノトキ

ハ鋼板ノ厚ハ六糎以上タルコト

鑄鐵製汽罐又ハ鑄鐵製溫水罐ノ罐體ヲ構成スル鑄鐵ノ厚ハ八糎以上タルコトヲ要ス

第七條 鏡板又ハ冠板ニ使用スル鋼板ノ厚ハ罐胴板、汽筒板又ハ火室板ノ厚ヨリ小ト爲スコトヲ得ズ

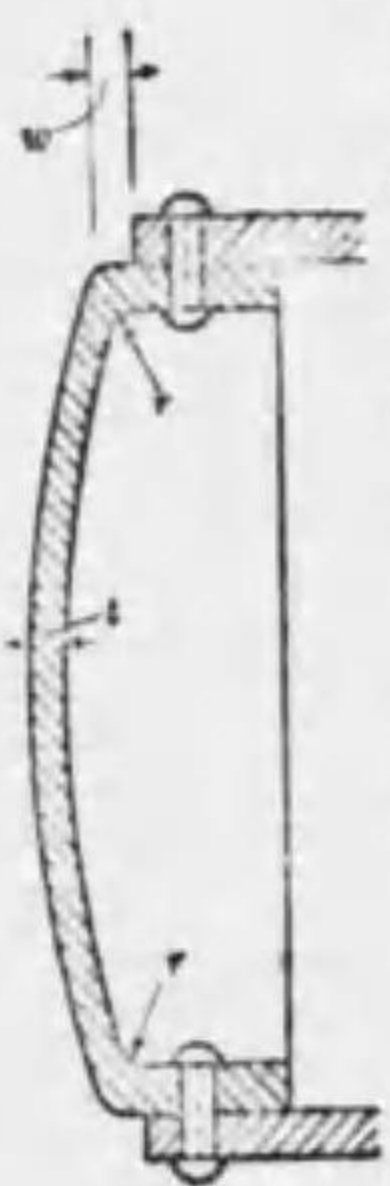
第八條 罐胴又ハ汽筒ノ縱接手ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 片日板衝接ト爲サザルコト

- 二 罐胴又ハ汽筒ノ内徑千耗ヲ超エ制限壓力八・五疋平方種以上ニ於テ使用スルモノニ在リテハ累接ト爲サザルコト
- 三 罐胴又ハ汽筒ノ内徑五百耗ヲ超エ制限壓力五疋平方種以上ニ於テ使用スルモノニ在リテハ一列銲累接ト爲サザルコト
- 四 横置多管式汽罐ノ罐胴ニ在リテハ火焰ニ直接接觸スルコトナキ位置ニ配置スルコト
- 第九條 汽罐（鑄鐵製汽罐、鑄鐵製温水罐及蒸罐ヲ除ク）ニハ罐胴又ハ鏡板ノ適當ナル箇所ニ人孔ヲ設クベシ但シ罐胴ノ内徑六百五十耗未満、長千耗未満ニシテ掃除若ハ検査ノ爲罐胴ニ潜入シ得ザルモノ又ハ罐胴ノ内徑千耗未満ノ豎型汽罐ニシテ人孔ヲ設ク難キモノ在リテハ二以上ノ掃除孔又ハ検査孔ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得人孔ノ大ハ長徑三百七十五耗以上、短徑二百七十五耗以上ノ橢圓形又ハ内徑三百七十五耗以上ノ圓形タルコトヲ要ス

- 掃除孔又ハ検査ノ大ハ内徑二十五耗未満タルコトヲ得ズ
- 第十條 横置多管式汽罐ニ在リテハ前條ニ規定スル人孔ノ外前管板ノ煙管集ノ下部ニ人孔ヲ設クベシ但シ罐胴ノ内徑千二百耗未満ニシテ人孔ヲ設ク難キモノ又ハ管板ノ縱中央部ノ管列間ニ若ハ外方管列ト罐胴トノ間ニ二百三十耗以上ノ間隙アルモノニ付テハ適當ナル大ヲ有スル掃除孔ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第十一條 豎型汽罐ノ罐胴ニハ水脚部ニ二以上ノ掃除孔ヲ設クベシ
- 第十二條 豎型多管式汽罐ノ罐胴ニハ火焰冠板ノ高ト同一ノ高ノ位置ニ二以上ノ検査孔ヲ設クベシ
- 第十三條 水管ヲ有スル豎型汽罐ノ罐胴ニハ水管ヲ掃除シ得ル位置ニ適當數ノ掃除孔ヲ設クベシ
- 第十四條 「コルニツシユ」型汽罐ノ前鏡板ノ下部ニハ掃除孔ヲ設クベシ

- 第十五條 罐胴、鏡板及管板ニ設クル人孔、掃除孔又ハ検査孔ハ相當ノ強力ヲ有スル縁環又ハ突環ニテ補強スベシ但シ掃除孔又ハ検査孔ノ長徑百五十耗未満ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十六條 控ニ依リ補強セラレザル鏡板ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス



- 一 取付鋸ノ曲内半徑（ $r$ ）ハ鏡板ノ厚（ $t$ ）ノ四倍以上ト爲スコト
- 二 取付鋸ノ彎曲起部ト胴板端トノ間（ $w$ ）ハ六耗以上ト爲スコト
- 第十七條 豎型汽罐ノ火焰冠板ト冠板トヲ連結スル焰管ノ内徑ハ罐胴内徑ノ六分ノ一以上タルコトヲ要ス
- 第十八條 管寄ノ材料ニハ軟鋼又ハ鉄鋼ヲ使用ス

- ルコトヲ要ス但シ工作ニ缺陷ナキ限り材質良好ナル鑄鋼ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ
- 第十九條 汽罐ニハ二以上（温水罐又ハ蒸罐ニ在リテハ一以上）ノ安全弁ヲ設クベシ但シ如格面積〇・六平方米又ハ傳熱面積十二平方米以下ノモノニ在リテハ之ヲ一ト爲スコトヲ得
- 温水罐ニ在リテハ制限壓力ヲ超ユル場合直ニ逸水スル安全裝置ヲ以テ前項ノ安全弁ニ代フルコトヲ得
- 第二十條 安全弁ノ徑ハ二十五耗以上タルコトヲ要ス
- 罐胴ノ内徑五百耗以下、罐胴ノ長千耗以下、傳熱面積二平方米以下及制限壓力五疋平方種以下ノ小型汽罐（以下單ニ小型汽罐ト稱ス）ニ在リテハ安全弁ノ徑ハ前項ノ規定ニ拘ラズ十九耗以上ト爲スコトヲ妨ゲズ
- 第二十一條 安全弁ハ其ノ徑三十八耗未満ナルトキハ之ヲ發條式ト爲スコトヲ得ズ但シ「ボツブ」

發條式安全弁其ノ他機能確實ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 安全弁ハ其ノ弁ニ加ハル蒸汽ノ全壓力六百瓩ヲ超ユル場合ハ之ヲ積桿式ト爲スコトヲ得ズ

第二十三條 安全弁ノ弁及弁座ニハ容易ニ腐蝕スルコトナキ材料ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十四條 汽罐(温水罐及蒸罐ヲ除ク)ニハ二以上ノ硝子水面計ヲ備フルコトヲ要ス但シ堅型汽罐ニシテ罐胴ノ内徑七百五十瓩未満ノモノ及喫房ニ専用セラルル鑄鐵製汽罐ニ在リテハ其ノ一ハ硝子水面計ニ非ザル水面測定裝置タルコトヲ妨ゲズ

硝子水面計ノ硝子管ハ内徑十瓩以上又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スルコトヲ要ス  
硝子水面計ハ其ノ硝子面ノ看取シ得ル最下部ガ安全低水面ヲ指示スベキ位置ニ取付タルコトヲ要ス

前項ノ安全低水面トハ汽罐使用中維持セラルベキ最低ノ水面ヲ謂フ

第二十五條 汽罐(蒸罐ヲ除ク)ニハ隨時單獨ニ汽罐ノ最大蒸發量以上ヲ給水シ得ル二以上ノ給水裝置ヲ備フベシ但シ第一ノ給水裝置ガ二以上ノ給水ポンプヲ結合シタルモノナル場合ニ於テハ第二ノ給水裝置ノ給水能力ハ汽罐ノ最大蒸發量ノ二十五パーセント以上ニシテ第一ノ給水裝置中ノ給水ポンプ中最大ノモノト同等以上ノモノタルコトヲ妨ゲズ

炉格面積〇・六平方米又ハ傳熱面積十二平方米以下ノ汽罐ニ在リテハ前項ノ規定ニ拘ラズ給水裝置ヲ一ト爲スコトヲ得

第一項ノ第一ノ給水裝置又ハ前項ノ給水裝置ハ動力ニ依リ運轉スル給水ポンプ又ハ「インゼクタ」タルコトヲ要ス但シ前項ニ該當スル汽罐ニシテ制限壓力二・五瓩平方瓩未満ノモノニ付テハ此ノ限りニ在ラズ

第二十六條 汽罐ノ制限壓力ヨリ其ノ二十パーセント以上高キ水壓力ニテ汽罐ニ給水シ得ル貯水槽又ハ汽罐ノ制限壓力ヨリ一瓩平方瓩以上高キ壓力ヲ有スル水道ハ之ヲ給水裝置ト爲スコトヲ得

第二十七條 近接セル二以上ノ汽罐ヲ結合シテ使用スル場合ニ於テハ給水裝置ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一汽罐ト看做ス

第二十八條 給水裝置ノ給水管ニハ汽罐ニ近接セル位置ニ給水弁及逆止弁ヲ備フベシ

第二十九條 汽罐ニハ水室ノ最低部ニ直結セル排水管ヲ設ケ之ニ排水コック又ハ排水弁ヲ備フベシ

排水コック又ハ排水弁ノ通水孔ノ斷面積ハ五百平方瓩(小型汽罐又ハ蒸罐ニ在リテハ百二十平方瓩)以上タルコトヲ要ス  
排水コック又ハ排水弁ハ見易ク且取扱容易ナル位置ニ設クベシ

第三十條 熱ガスニ接觸スル給水管、排水管及水面測定裝置ノ通水管ハ耐熱材料ヲ以テ防護スベシ

第三十一條 汽罐ニハ制限壓力ノ一倍半乃至三倍ノ指度ヲ有スル壓力計ヲ備ヘ制限壓力ノ指度ニ適當ノ標示ヲ爲スベシ

第三十二條 蒸罐ハ第一條乃至第八條、第十六條、第十九條乃至第二十三條、第二十九條及第三十條ニ依ルノ外左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 罐胴又ハ蓋板ノ材料ニハ鋼板ヲ使用スルコト但シ罐胴ノ内徑四百五十瓩以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スル蒸罐ノ蓋板ハ鑄鐵製タルコトヲ妨ゲズ

二 加硫罐又ハ罐板ガ著シク腐蝕セラルル處アル作業ニ使用セラルル蒸罐ノ鋼板ノ厚ハ九瓩以上タルコト

三 蓋板締付ボルトノ直徑ハ二十五瓩以上タルコト



ルコト但シ罐胴ノ内徑四百五十耗以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

四 鋼製蓋板ノボルト孔ヲ有スル板端ハ堅牢ナル構造ト爲スコト

五 蒸汽送入口中適當ノ箇所ニ減壓弁又ハ減壓裝置ヲ備フルコト但シ其ノ必要ナキ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

六 容易ニ内部ヲ検査シ得ザル蒸罐ニ在リテハ適當ノ箇所ニ検査孔ヲ設クルコト

七 横置型蒸罐ニ在リテハ罐胴ノ縦接手ハ罐胴ノ最低部ヨリ左右約二十度以内ノ範圍ニ之ヲ配置セザルコト

第三十三條 鑄鐵製汽罐ハ制限壓力〇・七延平方厘以下ニ於テ使用スル組合式タルコトヲ要ス  
鑄鐵製温水罐ハ制限壓力三延平方厘(水頭壓三十米)以下ニ於テ使用スルモノタルコトヲ要ス

第三章 強度計算

第三十四條 汽罐ノ強度計算ニ使用スル抗張力ハ日本標準規格ニ依ル場合ハ其ノ最低値ニ依ルモノトス  
前項ニ依ルコトヲ得ザル場合ニ於テハ地方長官ノ査定ニ依ルモノトス

第三十五條 胴板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{300}{EG-1} \times \frac{CDP}{200fE+1} \dots (1)$$

P ハ制限壓力 延平方厘

t ハ胴板ノ厚 耗

f ハ罐板ノ最小抗張力 延

D ハ罐胴ノ最大内徑 耗

E ハ縦接手部分ノ強度ニシテ左ノ算式中最小ノモノヲ用フルコト

(イ) 接手部分ニ於ケル胴板ノ強度

$$E_1 = \frac{1-R}{P}$$

(ロ) 接手部分ニ於ケル鉸鉄ノ強度

$$E_2 = \frac{f_s A (n_1 + 1.8 n_2)}{f_p t}$$

(ハ) 累接又ハ片目板ガ一列鉸少ナキ兩目板間接ニシテ鉸鉄ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鉸鉄及胴板ノ聯合強度

$$E_3 = \frac{1-2l}{p} + \frac{f_s A}{f_p t}$$

(ニ) 目板ノ等シキ兩目板間接ニシテ鉸鉄ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鉸鉄及胴板ノ聯合強度

$$E_4 = \frac{p-2l}{p} + \frac{1.8 f_s A}{f_p t}$$

縦接手ニ於テ累接ナルトキ

縦接手ニ於テ兩目板間接一列鉸又ハ片目板ガ一列鉸少ナキ兩目板間接ナルトキ

縦接手ニ於テ二列鉸以上ノ兩目板間接又ハ縱目無鋼管ナルトキ

四・七五

四・二五

四・〇〇

前項(ハ)(ニ)以外ノ構造ヲ有スル場合ニ於ケル鉸鉄及胴板ノ聯合強度ハ其ノ構造ニ從ヒ計算スルモノトス

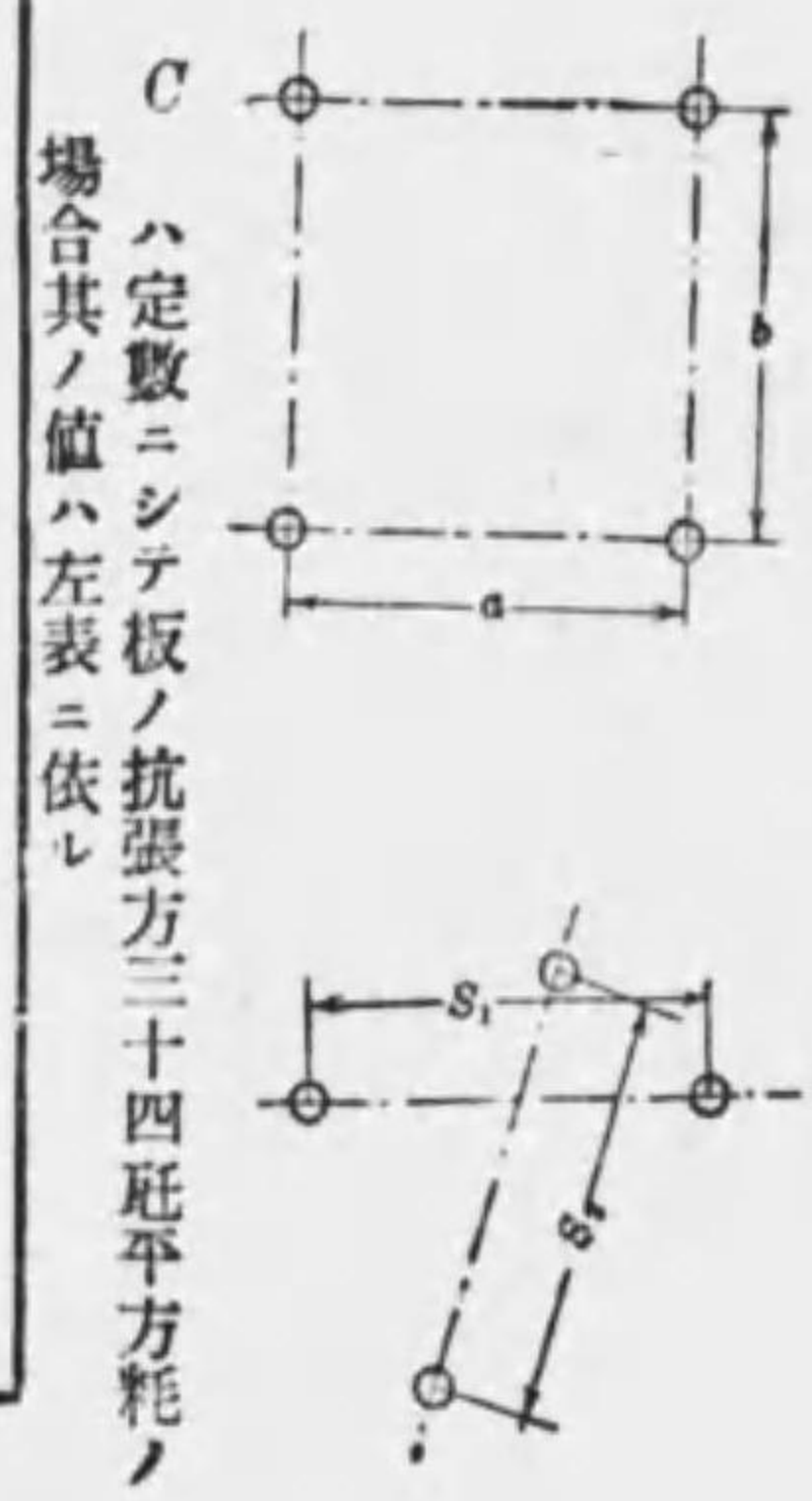
第三十六條 平板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  
一 控ノ配列規則正シキ場合

$$P = \frac{t^2}{C^2(a^2+b^2)} \text{ 又 } t = C\sqrt{(a^2+b^2)}P \dots (11)$$

二 控ノ配列不規則ナル場合

$$P = \frac{4t^2}{C^2(s_1+s_2)^2} \text{ 又 } t = \frac{1}{2}C(s_1+s_2)\sqrt{P} \dots (11)$$

- P ハ制限壓力 疋平方糎
- t ハ平板ノ厚 糎
- a, b, s<sub>1</sub>, s<sub>2</sub> ハ控ノ間隔 糎



C ハ定數ニシテ板ノ抗張方三十四疋平方糎ノ場合其ノ値ハ左表ニ依レ

座及 トス ル有 ル場 合	ネ		ジ		管
	頭部ヲ 絞締シタ ルモノ	熱ガスニ 觸レル場 合	頭付又 ハナツト ヲ有スル モノ	熱ガスニ 觸レル場 合	
熱ガスニ 觸レザ ル場合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	外面座金ノ 徑ガ控心 距ノ五分 ノ二ニシ テ其ノ厚 ガ板ノ厚 ノ三分ノ 二ナルト キ
熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	外面座金ノ 徑ガ控心 距ノ五分 ノ三ニシ テ其ノ厚 ガ板ノ厚 ノ六分ノ 五ナルト キ
熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	熱ガスニ 觸レル場 合	外面座金ノ 徑ガ控心 距ノ五分 ノ四ニシ テ其ノ厚 ガ板ノ厚 ニ等シキ トキ
〇・〇一七五	〇・〇一七五	〇・〇一五五	〇・〇一六〇	〇・〇一三九	〇・〇一四四
〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四
〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四	〇・〇一三四

金 一 一面ガ熱ガスニ觸レ他面ガ蒸氣ニ觸レル板ニシテ熱ガスニ觸レル面ガ何等防  
セラレザル場合ニハ上記ノ定數ヲ十パーセント増加スルコト

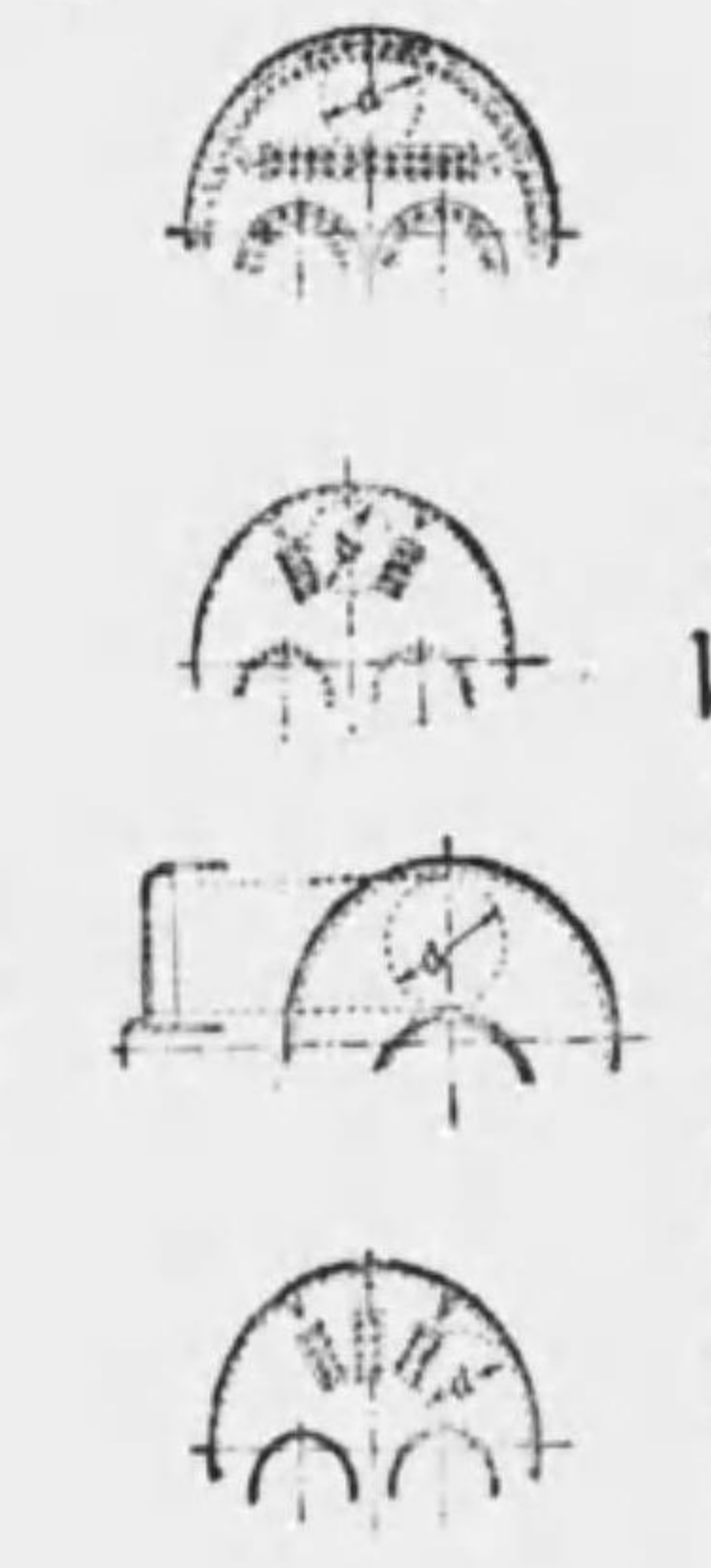
抗張力ガ疋平方糎ナル板ヲ使用スル場合ニ  
ハCノ直ハ前表ニ示スモノニ $\sqrt{34}$ ヲ乘ジタ  
ルモノトス

三 周圍ニ於テ固定セラレタル矩形平板ノ場合  
P = 5000  $\frac{t^2}{C^2}$  又  $t = 0.0141\sqrt{P} \dots (15)$

$$P = 350f_s \left( \frac{1}{m^2} + \frac{1}{n^2} \right) t^2 \text{ 又 } t = 0.053n \sqrt{\frac{P}{f_s \left\{ 1 + \left( \frac{n}{m} \right)^2 \right\}}} \dots (14)$$

定數〇・〇一四及五〇〇〇ハ板ノ抗張力ガ三  
十四疋平方糎ノ場合ニ對スルモノニシテ板ノ  
抗張力ガ疋平方糎ナル場合ニハ〇・〇一四  
ニ對シテハ $\sqrt{34}$ ヲ乘ジ、五〇〇〇ニ對シテ

- P ハ制限壓力 疋平方糎
- t ハ平板ノ厚 糎
- f<sub>s</sub> ハ材料ノ許容抗張力即四分ノ一抗張力 疋平方糎
- m ハ矩形ノ長邊 糎
- n ハ矩形ノ短邊 糎



四 ガセット控ニテ補強セラレタル平板ノ場合  
汽罐取締令

ハノ34ヲ乘ズルモノトス

五 火焰ニ接觸セザル平板ニ其ノ厚ノ三分ノ二ヨリ薄カラザル副へ板ヲ適當ニ銲着シタルトキハ左ノ算式ニヨリ定メタル値ヲ(二)、(三)、(四)及(五)式ニ適用ス

$$t = \frac{r}{8}(t_1 + t_2) \dots \dots \dots (六)$$

t<sub>1</sub> ハ原平板ノ厚 耗

t<sub>2</sub> ハ副へ板ノ厚 耗

第三十七條 鈔ヲ有スル鏡板ニシテ控其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  
一 平ナル鏡板ノ場合

$$P = \frac{200f}{3} \sqrt{\frac{t}{d - r(1 + \frac{2r}{d})}} \text{ 又 } t = 0.0612 \left\{ d - r(1 + \frac{2r}{d}) \right\} \sqrt{\frac{P}{f}} \dots \dots (七)$$

$$t = 0.0612 \left\{ d - r(1 + \frac{2r}{d}) \right\} \sqrt{\frac{P}{f}} \dots \dots (七)$$

P ハ制限壓力 耗平方輻

t ハ鏡板ノ厚 耗

f ハ板ノ抗張力 耗平方輻

d ハ鏡板ノ内徑 耗

r ハ鏡板端彎曲部半徑 耗

二 凹面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P = \frac{200f}{R} \text{ 又 } t = \frac{PR}{200f} \dots \dots \dots (八)$$

P ハ制限壓力 耗平方輻

t ハ板ノ厚 耗

f<sub>2</sub> ハ板ノ許容抗張力 耗平方輻 ニシテ

五耗平方輻以下トス

R ハ皿形ノ中央部ニ於ケル内面ノ半徑 耗

ニシテ鑪洞ノ内徑ヨリ大ナルコトヲ得ズ

皿形鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚ハ

(八)式ニテ算定シタルモノニ二耗ヲ加フベシ

三 凸面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P = \frac{200V/d}{R} \text{ 又 } t = \frac{PR}{200f} \dots \dots \dots (九)$$

P ハ制限壓力 耗平方輻

t ハ板ノ厚 耗

f<sub>2</sub> ハ板ノ許容壓縮力 耗平方輻 ニシテ

三・五耗平方輻以下トス

R ハ皿ノ中央部ニ於ケル外面ノ半徑 耗

第三十八條 多管式汽罐ノ管板ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 管群部以外ノ平板部ノ厚ニ對シテハ第三十六條ノ規定ヲ適用ス

二 管群部ニ於ケル厚ハ控管又ハ他ノ控ヲ有スル場合ハ第三十六條ノ規定ニ依ルベシ

此ノ場合ニ在リテハ煙管端ヲ單ニ擴大シタル構造タルヲ妨ゲズ但シ管板ノ厚ト耗ハ管孔ノ徑dガ三十八耗乃至百耗ノトキ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ  
鋼製管板ノ厚  $t = 5 + \frac{10}{\sqrt{D}} \dots \dots \dots (10)$

t ハ管板ノ厚 耗

d ハ管孔ノ徑 耗

三 管ノ心距p耗ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$p = \left(1 + \frac{4V}{t}\right) d \dots \dots \dots (11)$$

t ハ管板ノ厚 耗

d ハ管孔ノ徑 耗

p ハ管ノ心距 耗

四 燃燒室頂部ノ壓力ガ管板ニ加ハル場合其ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$t = \frac{PW D}{1900(D - d)} \dots \dots \dots (11)$$

W ハ制限壓力 耗平方輻

t ハ管板ノ厚 耗

D ハ煙管ノ水平心距 耗

W ハ管板ト燃燒室反對側板トノ間隔 耗

第三十九條 ハ煙管ノ内徑 耗  
水管式汽機ニ於テ圓筒ノ一部ヲ成ス  
管板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ  
算定シタルモノトス但シ管ノ取付ニ對スル管板  
ノ有效厚ハ十耗以上トス

$$P = \frac{100(t-s)(p-d)}{2.1Dp} \text{ 又 } \text{ハ}$$

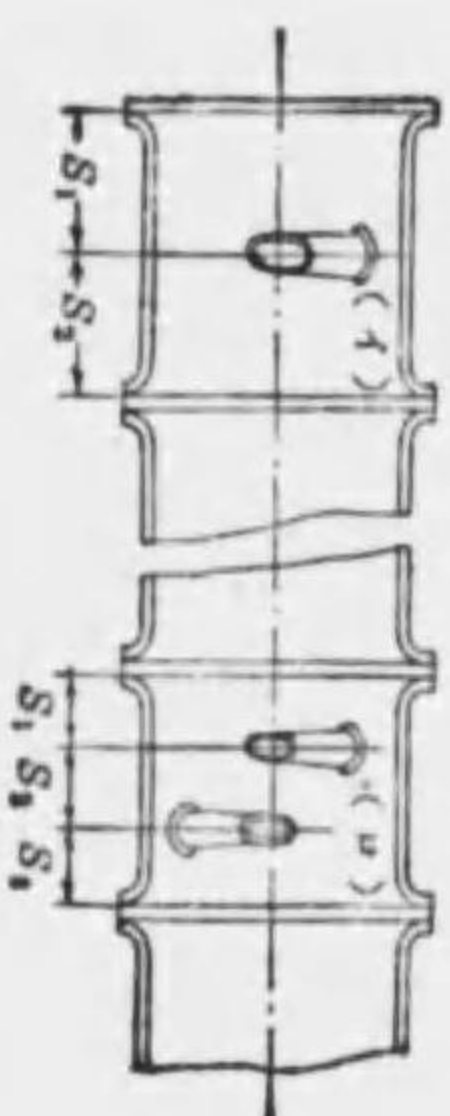
$$t = \frac{2.1DPp}{100(p-d)} + s \dots\dots\dots (111)$$

- P ハ制限壓力 庇平方糧
- t ハ管板ノ厚 耗
- f ハ材料ノ抗張力 庇平方糧
- p ハ管孔ノ縦心距 耗
- d ハ管孔ノ内徑 耗
- D ハ圓筒ノ内徑 耗

第四十條 煙筒ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{2400(t-2)}{2400(t-2) + \left\{ 2 + \frac{a}{2400(t-2)}(s+D) \right\} D} \text{ 又 } \text{ハ}$$

$$t = \frac{DP}{2400} \left\{ 1 + \sqrt{1 + \frac{as}{K(s+D)}} \right\} + 2 \dots\dots (114)$$



(1) 環  $s = s_1 + s_2$   
 (2) 環  $s = s_1 + s_2$   
 (3) 環  $s = s_1 + s_2$

縦接手ノ種類	横煙筒	縦煙筒
累接ノ場合	一〇〇	七〇
銜接又ハ鍛接ノ場合	八〇	五〇
鐵ニ無又ハ鍛接ニシテ圓形ノ歪ガ照ノ一パーセント以内ノ場合	七五	四五



第四十一條 波形煙筒ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{1500(t-2)}{D} \text{ 又 } \text{ハ}$$

$$t = \frac{PD}{1500} + 2 \dots\dots\dots (115)$$

- P ハ制限壓力 庇平方糧
- t ハ波形煙筒ノ厚 耗
- D ハ煙筒ノ最小内徑 耗

第四十二條 控ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各

號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  
 一 拵控並ニネチ控  $P = \frac{75t^2A}{a} \text{ 又 } \text{ハ}$

$$a = \sqrt{\frac{aP}{75t^2}} \dots\dots\dots (116)$$

二 控管  $P = \frac{95t^2A}{a} \text{ 又 } \text{ハ}$

$$A = \frac{Pa}{95t^2} \dots\dots\dots (117)$$

三 斜控  $P = \frac{95t^2AH}{aL} \text{ 又 } \text{ハ}$

$$A = \frac{PaL}{95t^2H} \dots\dots\dots (118)$$

四 ガセット控  $P = \frac{85t^2AH}{aL} \text{ 又 } \text{ハ}$

$$A = \frac{PaL}{85t^2H} \dots\dots\dots (119)$$

- P ハ制限壓力 庇平方糧
- a ハ一本ノ控ノ受持ッ面積 平方耗
- d ハ控ノ最小断面ノ徑 耗

- A ハ控ノ最小断面積 平方耗
- L ハ斜控ノ長又ハガセット控ノ平均長 耗
- II ハ斜控ノ一端又ハガセット控ノ一端中央部ヨリ平板面ニ垂直ノ長 耗



f<sub>0</sub> ハ控ノ材料ノ許容内力 珪平方耗 ニシテ左表ニ依ル

日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	七・五
日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	八・〇
日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	六・〇
日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	七・五
日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	八・〇
日本標準規格第四百三十一號罐用壓延鋼材	五・〇

第四十三條 桁控ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ

算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \cdot W \cdot \sqrt{A}}{P \cdot W \cdot \sqrt{A}} \dots \dots \dots (110)$$

- P ハ制限壓力 珪平方耗
- t ハ桁控板中央部ノ厚 耗
- d ハ桁控板中央部ノ高 耗
- W ハ桁控兩端支持部ノ間隔 耗
- P ハ桁控上控ボルトノ心距 耗
- D ハ桁控ノ心距 耗
- C ハ定數ニシテ材料ノ抗張力ガ四十一珪平方耗ノ場合左表ニ依ル

控ボルト一本ノ場合	五二〇
控ボルト二本又ハ三本ノ場合	七八〇
控ボルト四本又ハ五本ノ場合	八七〇
控ボルト六本又ハ七本ノ場合	九二〇
控ボルト八本以上ノ場合	九五〇

材料ノ抗張力ガ珪平方耗ノ場合ニハCノ値ハ右ニ示スモノニテ41ヲ乘ジタルモノトス  
 第四十四條 煙管ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{700(t-1.5)}{d} \text{ 又 } t = \frac{Pd}{700} + 1.5 \dots \dots (111)$$

P ハ制限壓力 珪平方耗 但シPハ珪平方方種  
 t ハ管ノ厚 耗  
 d ハ管ノ外徑 耗  
 本式ニ依リ算定シタル日本標準規格罐用鐵目無煙管ノ最高許容壓力ハ左表ノ如シ

外徑耗	26	29	32	35	4	45	5
3.8	20.2	24.5	21.6	23.3	25.0	24.7	24.5
4.0	19.3	21.8	19.8	21.5	23.4	23.3	
4.5	17.1	19.6	18.3	20.0	21.8	21.1	
5.0	15.4	17.8	17.0	18.7	20.6	20.1	
5.5		16.3	15.9	17.5	19.4	19.4	
6.0		15.1	14.9	16.5	18.4	18.4	
6.5		14.0	14.0	15.5	17.7	17.7	
7.0							
7.5							
8.0							
8.5							
9.0							
9.5							
10.0							

第四十五條 水管ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ

算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{1000(t-1.5)}{d_i} \quad \text{又ハ} \quad t = \frac{P d_i}{1000} + 1.5 \quad \text{(一一三)}$$

P ハ制限壓力 底平方櫃

d<sub>i</sub> ハ管ノ厚耗

d<sub>i</sub> ハ管ノ内徑 耗

本式ニ依リ算定シタル日本標準規格罐用鐵目無鋼管ノ最高許容壓力ハ左表ノ如シ

厚耗	20	23	26	29	32	35	40	45
外徑耗	23.8	31.6	31.6	31.7	31.7	31.7	31.7	31.7
25								
30	19.2	26.3	27.6	28.4	28.4	28.4	28.4	28.4
35								
40								
45								
50			24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5
55								
60				21.8	21.8	21.8	21.8	21.8
65								
70								
75								
80								
85								
90								
95								
100								

火焰側ニ配置セラレタル二列ノ水管ノ厚ハ第一項ノ算式(一一三)ニ依リ算定シタル厚ニ〇・三耗以上ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四十六條 安全弁ノ總面積ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 鋼板製汽罐(蒸氣ヲ除ク)

$$F = 15H \sqrt{\frac{1000}{P_r}} \quad \text{.....(一一三)}$$

二 鑄鐵製汽罐

(イ) 上向通風ノ場合

$$F = \frac{15}{3} H \sqrt{\frac{1000}{P_r}} \quad \text{.....(一一四)}$$

(ロ) 下向通風又ハマガジンフイードノ場合

$$F = \frac{10}{3} H \sqrt{\frac{1000}{P_r}} \quad \text{.....(一一五)}$$

P ハ制限壓力 底平方櫃

F ハ安全弁ノ總面積 平方耗

H ハ傳熱面積 平方米

汽罐取締令

ハ制限壓力ニ對應スル蒸氣一立方米ノ重量

第四十七條 汽罐ガ最高蒸發ヲ繼續スル場合壓力ヲ制限壓力ヨリ十パーセント以上ニ上昇セシメザル構造ヲ有スル安全弁ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ

鑄鐵製汽罐ニ在リテハ制限壓力ヨリ〇・三底平方櫃以上壓力ヲ上昇セシメザル安全裝置ハ之ヲ安全弁ト看做ス

424  
355

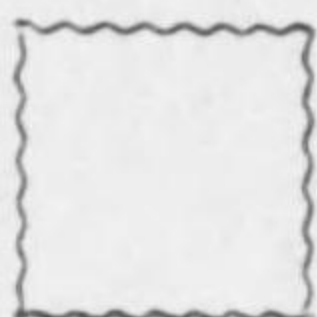
昭和十六年十一月二十五日  
昭和十七年六月二十五日  
昭和十七年六月三十日  
第十一刷  
第十一刷  
第十一刷  
發行

〔定價拾錢〕

編輯兼  
行人  
東京市神田區神保町二丁目十七番地  
橋本重遠

印刷人  
東京市神田區美土代町十六番地  
嶋富士雄

印刷所  
東京市神田區美土代町十六番地  
株式會社 三秀舍



東京市神田區神保町二丁目十七番地

發行所

大日本產業報國會

電話九段(33)  
二三四四・四九七六  
二三四四・四九七六

終

